

岡山中学生白書

2019年6月10日 初版第1刷発行

若者と大人がつながることが、地域の未来をひらく
NPO法人～だっぴ～

〒700-0822

岡山市北区表町1丁目4-64上之町ビル301

✉ dappi@dappi-okayama.com

NPO法人だっぴ 検索   



キャリア教育プログラムを通して見た
中学生が考えていること

岡山

中学生

2019

白書

若者と大人がつながることが、地域の未来をひらく
NPO法人～だっぴ～

P12	P11	P10	P08	P04	P03	P02	目次
●	●	●	●	●	●	●	
中学生座談会	地域について	将来について	自分自身について	中学生意識調査	NPO法人たっぴについて	現在の中学生事情	

はじめに 現在の中学生事情

若者がこれから生きる不確実性の高い未来

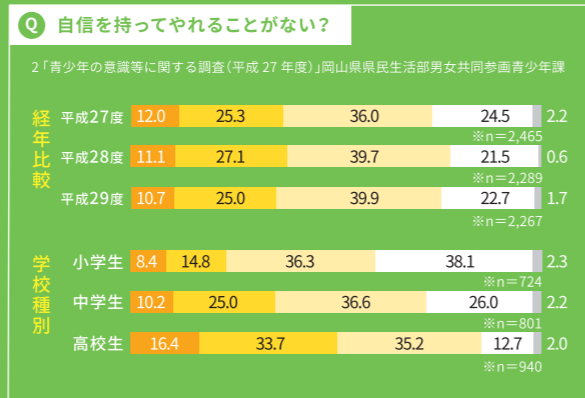
日本の人口は減少し始め、これまでと同じような成長モデルは成立しなくなる一方、技術の進歩や経済状況の変化など、目まぐるしく姿を変えていく現代において、未来予測はかなり難しくなっていると云えます。そのような現代を生き抜くために必要な能力もまた、これまでとは異なるものになっています。2020年の教育改革で大学入試や高校の教科が変わっていき、小学校からの英語教育やプログラミング教育も始まります。

若者がこれから生きていく社会、これからつくっていく社会は、これまでとは異なるかたちのものになるでしょう。大きな転換点にある中で、岡山の若者(中学生)はどのような状況になるのか、その輪郭の一部をとらえていきたいと思えます。

いまだ低い自己肯定感

以前から日本の子ども・若者は、自分に自信をもてないという問題が指摘されています^{※1}が、岡山においても同様の傾向があることが伺えます。『青少年の意識等に関する調査(平成27年度)^{※2}』によると、「自信をもってやれることがない」と答えた子ども・若者は4割近く、また、小学校・中学校・高校と発達段階を経るにつれてその割合は増加していることが分かります。

※1 平成26年度子ども・若者白書「特集 今を生きる若者の意識～国際比較から見えてくるもの」内閣府
※2 「青少年の意識等に関する調査(平成27年度)」岡山県県民生活部男女共同参画青少年課



若者と大人のつながりと信頼

東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所共同研究『子どもの生活と学びに関する親子調査2017』によると、「世の中の人には信頼できる」と回答した中学生は5割以下となっており、中学1年生から高校1年生にかけては、さらに約10ポイント低下して4割弱になっています。年齢を増すごとに、大人や社会に対して信頼できなくなっているようです。NPO法人だっぴが実施している「中学生だっぴ」事業の中で、プログラムに参加した中学生が「大人は信用できないものだと思っていたけど、今日話をしてみて、信用してみてもいいかなと思った。」という感想を述べていました。大人との対話によってつくられた“一人の大人への信頼”がやがて拡張し、“社会への信頼”を醸成していくと考えています。

反対に言えば、若者と大人で対話できる機会があれば、お互いに信頼のつながりをつくることのできるはずなのに、そうしたつながりの機会が十分に用意されていないとも言えます。

本書の目的

本書では、岡山県の中学生が

- ① 自分自身について
- ② 将来について
- ③ 地域について

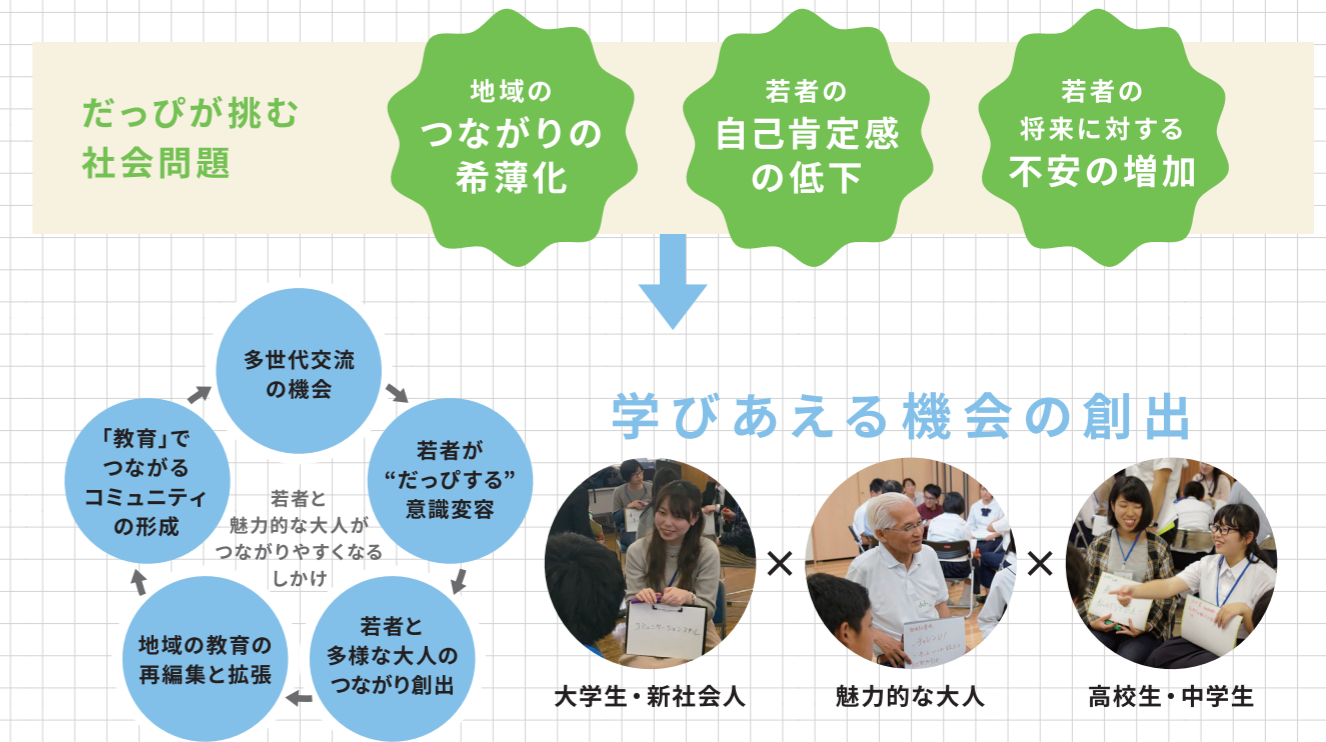
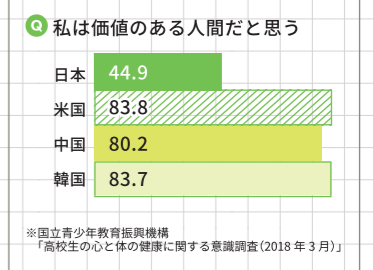
どのようなことを感じているのかを明らかにしていきたいと思えます。

上記のような背景の中、中学生の感じていることや状況を広く知っていただくことが、若者の成長を見守り、応援する社会の醸成につながると考えました。本書では、NPO法人だっぴが実施する「中学生だっぴ」のプログラム参加前後で、中学生が回答したアンケートの結果から読み取れることを中心に、できるだけ客観的に考察することに留意して作成しました。

NPO法人だっぴ

若者一人ひとりが自分らしく生きられる社会へ

しばしば、日本の若者の自己肯定感は海外と比べて低い数値であると言われます。また、自分に満足していない若者ほど、将来に対する願望もみつけにくくなっています。見通しのつきにくい未来を生きていく若者に突きつけられる「自分は何者なのか」という問い。地域や人のつながりが失われつつある中では、その問いへのヒントとなる出会いの機会もおおずと少なくなります。



これまでのあゆみ

- 2010年 2010年12月 だっぴ50×50初開催
- 2013年4月 ぶちだっぴ事業を開始
- 2013年10月 NPO法人化
- 2014年9月 高校生だっぴ初開催
- 2015年10月 中学生だっぴ事業を開始
- 2016年7月 福武教育振興財団 谷口澄夫教育奨励賞受賞
- 2016年10月 ESD岡山アワード岡山地域賞 受賞

講演実績・メディア掲載 (2018年、2019年より一部抜粋)

講演実績	講演日	内容	
	2018年 6月	青少年育成相談員研修会講演	
	2018年 6月	文化芸術交流イベント登壇	
	2018年10月	キャリア教育講演会@笠岡市新吉中学校区	
	2018年12月	岡山西南ロータリークラブ卓話	
	2019年 1月	倉敷市公民館講演	
メディア掲載	掲載日	内容	媒体
	2018年 4月	岡山・中学生と大人の出会会場「だっぴ」、インターネットで資金集め	岡山経済新聞
	2018年 6月	多世代が語り合う場を	山陽新聞社説
	2018年 9月	中学生白書発行	RSK ラジオ
	2018年12月	「生きるを楽しむ」考えよう 西粟倉で来年2月「だっぴ」中学生らの実行委発足 参加者人選始める	山陽新聞
	2019年 3月	「地域を動かすローカルプロジェクト」	ソトコト4月号

中学生と向き合い続ける中で 感じた意識の変化

NPO 法人だっぴでは、地域の魅力的な大人と中学生の出会いの場

「中学生だっぴ」を実施しています。

平成 30 年度の参加校 17 校の生徒を対象に交流の前後にアンケートを実施。

岡山の中学生たちが現在持つ生き方や働き方についての意識を調査しました。



代表挨拶



NPO 法人だっぴ
代表理事
柏原 拓史

中学生白書を手にとってくださり、ありがとうございます。

私たちは 2015 年より中学校と連携し、中学生が地域の大人や大学生と交流する機会をつくってきました。参加した中学生には、自己肯定感の向上や地域への愛着も高まるという変化が見られます。その一方で、参加前のアンケートを見ると、今の中学生たちの自己肯定感の低さや、地域への関心の低さなどが見て取れました。

アンケートから見えてくる中学生の現状を地域のみなさまに還元し、今の中学生の状況を正しく発信することも自分たちの役割ではないかと考え、この中学生白書を発行することにしました。教育関係者のみならず、多くの方に中学生の置かれた状況の一端を知っていただき、これからの若者たちへの関わりを考える機会となることを願っています。

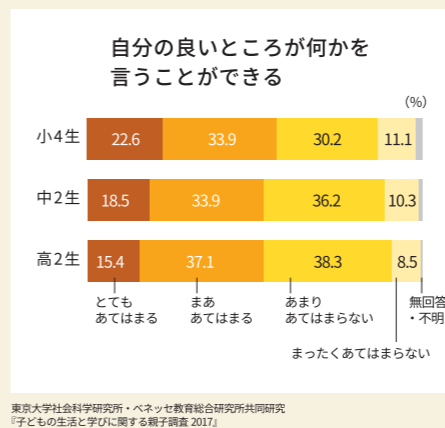
中学生の意識

自分自身について



年齢とともに下がる
自己肯定感

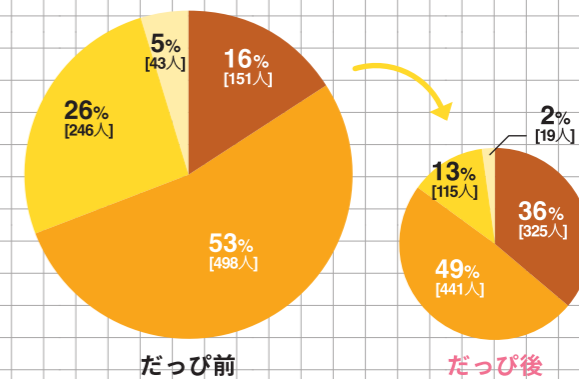
東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所共同研究『子どもの生活と学びに関する親子調査 2017』によると、「自分の良いところが何かを言うことができる」の項目について、小学生から中学生、高校生になるにつれて「とてもあてはまる」「の回答割合は低くなっています。一見、年齢を重ねるごとに自己理解が進み、自分の良いところを見つけれそうとも思いますが、自分を肯定的に捉えられる若者は多くはないようです。また、40%を超える中学生が「言うことができない」という否定的な回答をします。



岡山中学生アンケート

■とてもそう思う ■まあそう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない(無回答は省く)

Q.1 私にはよいところがあると思う



自分を強く肯定できる
中学生は少ない

Q1と同様の質問が『全国学力学習状況調査』でも行われているのですが、平成 30 年度(対象は中学 3 年生)の結果は、「当てはまる 33.8%、どちらかといえば当てはまる 45.1%」というものでした。回答の選択肢や対象学年が異なるので一概に比較はできませんが、私たちの調査結果(だっぴ前)

の「とてもそう思う」と照らし合わせてみても、**強く自分を肯定できる中学生は数少ない**ということが考えられます。

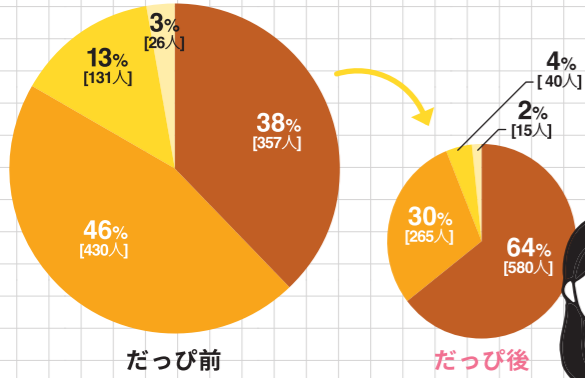
▶だっぴ参加後の結果

だっぴ参加後のアンケート結果を見ると、肯定的な回答が増加しています。中学生の感想で「**自分が思っている意見を言えて、聞いてもらってすごい気分がすっきりしたし、よかったです。**」「自分の意見も自由に言えて、認められている雰囲気が良い!」などの意見があり、こうした“他者から認められた体験”が自己肯定感を高めていると思われる。

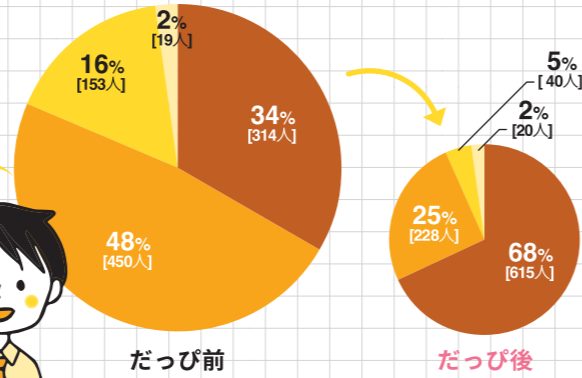
岡山中学生アンケート

■とてもそう思う ■まあそう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない(無回答は省く)

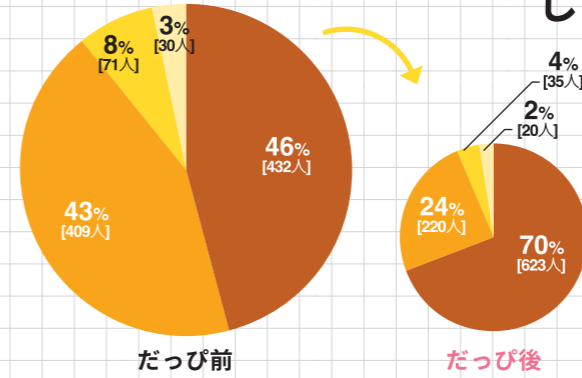
Q.2 積極的に人と関わっていききたい



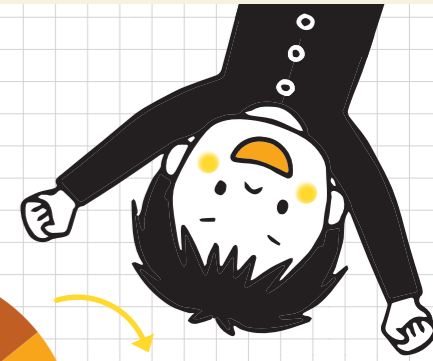
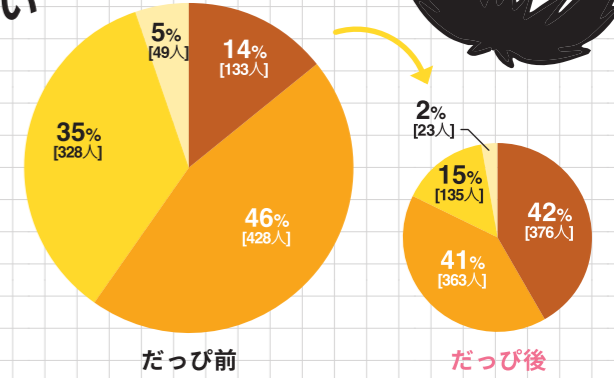
Q.3 たくさんの人の話を聞きたい



Q.4 多くの人の役に立ちたい



自分の行動により
自分の周囲の状況を
少し変えられるか
もしれない



いくことについては自信がないという姿が想像されます。これは昨年度と同様の傾向です。

Q.6について、ほとんどの中学生が自分のことを大切にしようと思っており、昨年度の中学生白書と比較すると、「とてもそう思う」の回答は15ポイント増加しています。

▼だっぴ参加後の結果

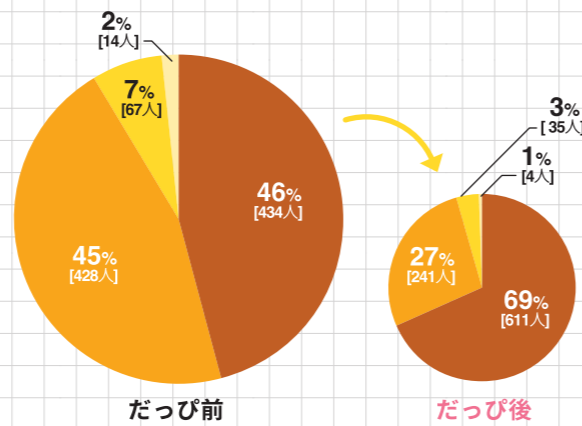
Q.2～Q.4、Q.6の項目について、「とてもそう思う」の回答が7割以上に増加しました。「またこんな機会があれば参加したい。初対面の人と話すのはあまり好きじゃなかったけど、好きになった。」「大人と関わることがなかったから良い機会になったと思う。たまには大人と積極的に関わるのも良いのかも、と思った。」などの感想から、多様な人との対話を通して、人と関わることの面白さを感じてもらえたのではないかと思います。Q.5「周囲の状況を変えられるかもしれない」の項目に「とてもそう思う」と回答した中学生も3倍近く増えています。

人の役に立ちたい
でも状況を変える
自信はあまりない。

●人の役に立ちたいという回答多数
●昨年度に比べて全体的に肯定的な回答が多い
●行動することについては消極的
「積極的に人と関わっていききたい」「たくさん人の話を聞きたい」と思っている中学生は多く、中でもQ.4「多くの人の役に立ちたい」の項目では、半数近い中学生が「とてもそう思う」と答えています。人と関わっていくことを望み、誰かの役に立ちたいという気持ちが強いことが伺えます。また、昨年度発行の中学生白書と比べてQ.2～Q.5(参加前)の全ての質問において「とてもそう思う」と答えた割合は増加しています。

しかし、人の役に立ちたいと考える中学生は多い一方で、自分の周囲の状況を変えられる(Q.5)と思える中学生は少なく、行動や挑戦して

Q.6 自分のことを大切にしようと思う

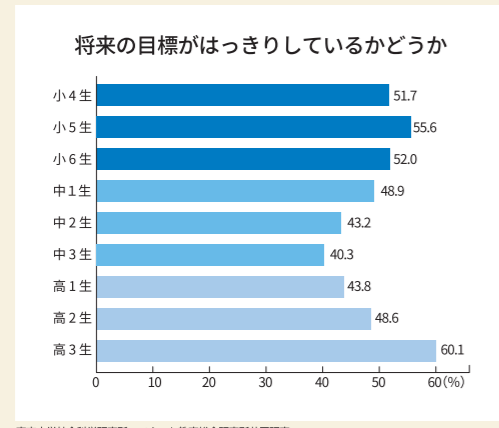


考察と提言

勇気を出して表現した自分の考えが、誰かに受け入れられたという経験が、中学生の自己肯定感の向上につながっていると考えています。それは「中学生だっぴ」における対話の空間が、安心安全な場になっていたからこそ生まれたものだと思います。中学生が「自分は受け入れられている」と感じられるような居場所や地域をつくらせていくことで、若者が自分らしく社会参画していけることにつながっていくと思います。まずは、そうした安心安全な場がつくれる、若者と大人の関係性や環境を整えていくことが重要だと考えます。

人と関わっていくことに対してポジティブに考えている中学生は多い一方で、実際にコミュニケーションをとっていくことに自信がない中学生も多いです。たくさんの人とのつながりの中で、他人と関わっていく力や自信を培っていくことが必要だと思います。そのためにも、より多くの人たちが教育に関わっていくことが大切です。学校だけが教育の場になるのではなく、地域全体やそこにいる人たちが、若者の学び場の一部となっていくように、学校と地域がつながったり、企業がつながったり、そうした地域のつながりを私たちはつくっていきたいと思います。

将来について



東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所共同研究 『子どもの生活と学びに関する親子調査 2016』

将来のことはよくわからない

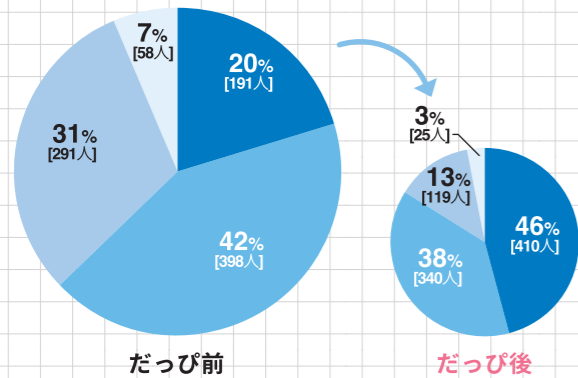
東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所共同研究『子どもの生活と学びに関する親子調査2016』によると、「将来の目標がはっきりしている」と回答した年齢層は、中学生が一番低くなっています。内閣府『平成27年版子ども・若者白書』によると、勉強や進路に不安をもっている中学生は68.4%。小学生の38.7%から40ポイントも上昇しています。

不確実性の高まっている未来に対して、不安を抱く中学生が多いことも想像されます。

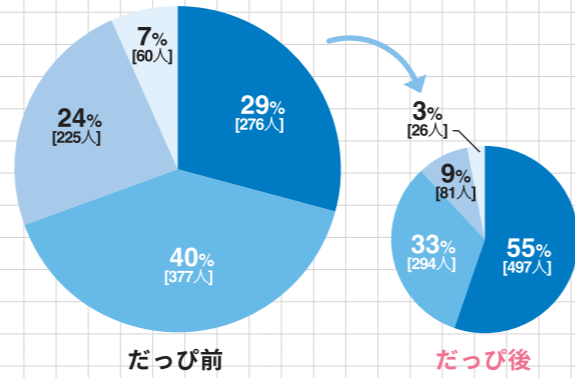
岡山中学生アンケート

■とてもそう思う ■まあそう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない(無回答は省く)

Q.8 自分の将来に希望を持てる



Q.9 大人になること・働くことが楽しみだ



大人への信頼感が将来の希望につながる

- 約4割の中学生が自分の将来に希望が持ちにくいと回答
- 未来はポジティブに考えたいが、大人になることにはネガティブ

Q8「自分の将来に希望を持てる」の項目に「とてもそう思う」

と回答した中学生は20%となっています。反対に否定的な回答は38%と、将来への不安も見て取れます。Q10、11の結果から、「自分の未来は変えられる」「進路選択のためにできることに取り組みたい」と考える中学生は多いようです。それに比べると、Q9「大人になること・働くことが楽しみだ」と思っている中学生の割合はやや少なく、「未来」や「進路選択」というキーワードに対してはポジティブに考えているものの、やや具体性のある「大人」「働く」に

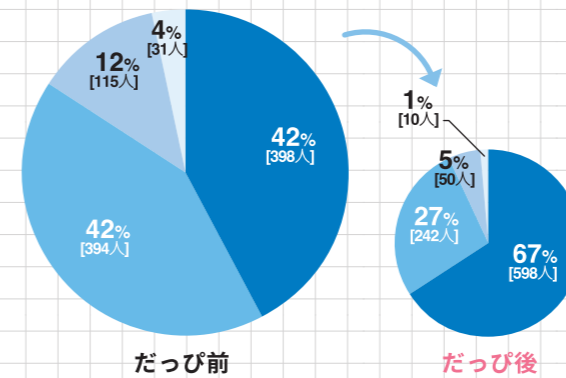
対してはネガティブに考える層がいることが予想されます。

▶だっぴ参加後の結果

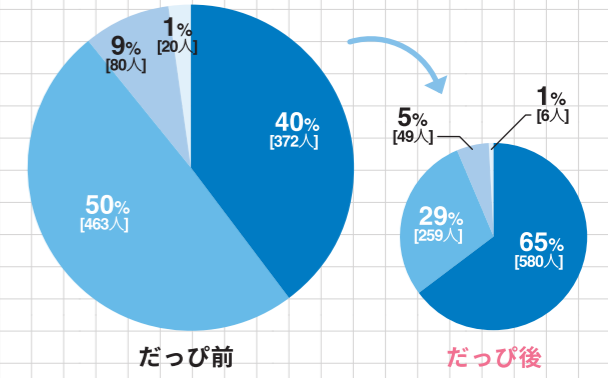
Q8「自分の将来に希望を持てる」の「とてもそう思う」回答者は2倍以上になりました。Q9「大人になること・働く

ことが楽しみだ」の「とてもそう思う」回答者も5割以上に増加しています。参加した中学生からは「大人ってすげえー!と思ったし、かっこよかった。」「大人の人たちがおもしろかったので、自然と笑顔になった。」「大人は意外といやじゃなかったしこわくなかった」などの感想がありました。

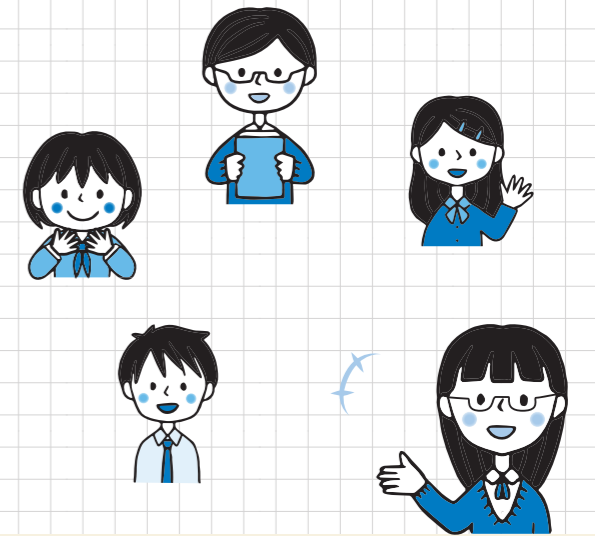
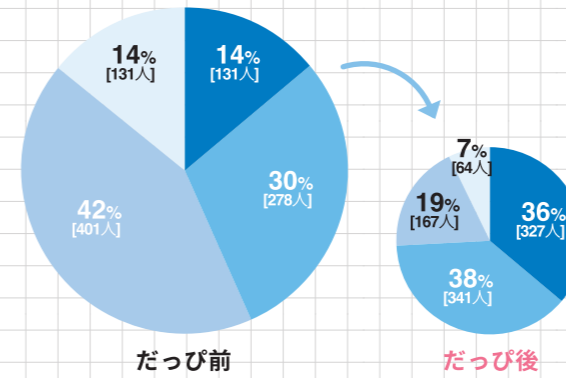
Q.10 自分の未来は自分で動けば変えられると思う



Q.11 より納得した進路選択のためにできることに取り組んでみたい



Q.12 両親や先生以外の大人の人に進路選択について相談したい

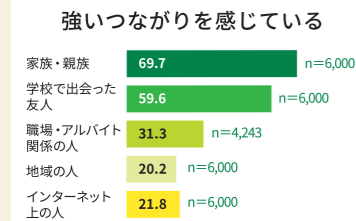


考察と提言

『青少年の意識等に関する調査(平成27年度)』によると、「あなたが、今の大人を見て、悪いと思うところはどこですか」という質問で「自分の間違いを素直に認めない」「子どもの話を聞かず、自分の考えを押しつける」「自己中心的で怒りやすい」などの回答が多くなっています。大人になりたいと思にくい要因はこうした大人への悪いイメージにもあるのかもしれませんが。大人との信頼関係の構築においても、その障壁となるようなマイナスイメー

ジを中学生はもっていると思われます。しかし、対話の中で自分の意見を受けとめてくれたり、自己開示をしてくれる大人の存在が、大人のイメージを再構成につながっていると思われます。結果として、大人への信頼や「大人に自分もなりたい」という将来の希望につながっているとも考えられます。等身大の大人に触れることのできる“いい出会い”をつくっていくことが大切です。

地域について



内閣府「平成29年版 子供・若者白書」より

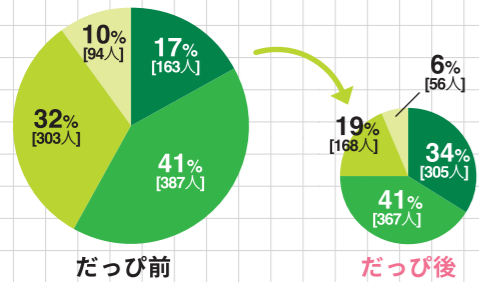
地域の人のつながりを感じていない

内閣府『平成29年版 子供・若者白書』の「特集 若者にとっての人のつながり」によると、地域を自分の居場所だと感じている若者は58.5%となっており、強いつながりを感じている割合も20.2%と他の項目に比べて低くなっています。若者と地域のつながりが希薄化している状況では、地域への愛着形成も難しいことが予想されます。

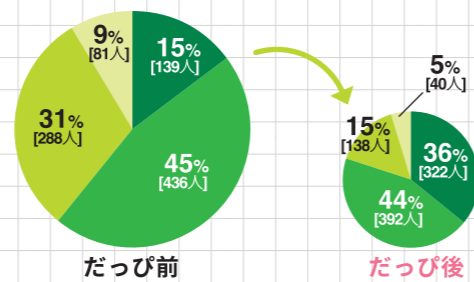
岡山中学生アンケート

■とてもそう思う ■まあそう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない(無回答は省く)

Q.13 地域で起こっている問題や出来事に関心がある



Q.14 地域をよりよくするために何をすべきか考えたい



大人とのつながりの深さに比例して、地域への愛着が深まっている

●地域への興味関心や当事者意識は薄い

Q13で「とてもそう思う」と回答した中学生は17%、Q14では15%といずれも低い数値になっており、中学生の地域への興味関心や当事者意識は薄いことがわかります。

▶だっぴ参加後の結果

Q14で「とてもそう思う」と回答した中学生は2倍以上に増えています。「自分の考えをこんなにも優しく聞いてくださる方ばかりで〇〇(地域名)はいいなって思った。」という中学生の感想があり、大人とのつながりをつくるのが、地域そのものに対する愛着にも寄与することがわかりました。

✎考察と提言

感想からも分かるように、中学生だっぴのプログラムを通して醸成された地域への愛着は、「場所」に対する愛着よりも、その地域の「人」に対する愛着であることが想像されます。地域の人に対する愛着や信頼が、地域社会そのものに対する当事者意識や帰属意識に拡張されていき、「地域のために何か考えたい」という貢献意識にもつながっていくと思います。

若者の地元への愛着形成という観点でも、たった1人の地域の人との信頼関係づくりから始めるということが重要だとわかります。また、こうした若者の意識変容の瞬間を逃さず次のアクションを提案できるようになるためにも、若者が地域で活躍できる土壌を整え、若者の「関わりしろ」を可視化・具体化していく必要があります。

だっぴ中学生座談会

2019年2月に実施した「西粟倉中学生だっぴ」の実行委員を担当した西粟倉中学校生の8人にインタビュー。データだけでは見えない、リアルな声を聞きました。



Q だっぴを通して学んだことは？

壁にぶつかったら他の方法を考えて進む！

参加者を集めるのがすごく大変！でもあきらめずに頑張る



一人一人違いがあること
同じ意見でも表現によって違うように感じてもらいたい

考えていることが一緒だった
(どんな人になりたいかという質問に「泣かない人になりたい」と答えてる人がいた)

どんなスゴイ人でも失敗していた

写真では恐そうだったけど実際に会うと優しく話をしてくれた



Q どんな大人になりたい？

誰にでもやさしくてずっと笑ってる人！

自分の思っていることをしっかり伝えられる人

笑うだけじゃなくて泣いたり怒ったり自分の感情をうまく表現できる人

自分と違う意見も「それもあるね」って聞ける人



どんな職業に就くか想像できない...

ポジティブすぎること。笑
悪い方に向かっていても気づかない！

お金が心配。
使わないようにはできるけど欲しいものがあるから悩む。



Q この先の人生で一番不安なことは何？



西粟倉中学生だっぴ実行委員のみなさん(ゆき、あみ、ひなた、なーさん、なるみ、だいちん、会長、こーこな)ありがとうございました！

自分の中学生の頃を思い出すと、大人は「信じられない存在」でした。多くの中高生と出会う中で、「大人は信用できないと思ってた」と話す生徒を見て、私も共感できます。「今やっている勉強が、社会でどう役立つのかわからない」という声に、私も納得してしまいます。自分のことに照らして考えると、社会を学ぶことや自分の生き方・将来を考えることは、機会として多くはなかったように思います。私の場合は、そうした機会が偶然大学3年生のときに訪れましたが、そのとき私が感じたことは「遅い」という後悔の感情でした。

「社会に開かれた教育課程」が学校に求められている現在、若者が大人や社会とつながる機会を意図的に創造していく必要性があります。地域のつながりが希薄化し、それまで地域が担ってきた社会教育的な役割も同時に薄らいでいます。教育のつながりを再構築して、学校と社会、若者と大人をつないでいくことができれば、中高生が社会で学ぶ機会も増えていくと思います。

そうした「つながる機会」は、今回のデータからも見えてきたように大きな可能性をもっていきます。また、中学生の多くは「人と関わりたい」「人の役に立ちたい」と思っていることもわかりました。人と関わっていくための自信や、関わる機会をつくり、そのつながりの中で「自分も誰かの役に立てた」と思える経験を生み出していくことは、とても重要だと感じます。

つながることから生み出される経験とそこでの学びが、大人や社会への不信を解消したり、自分の生き方をかたちづくっていったりすると考えます。もちろん、それが全てを解決するわけではないので、「学びをどうデザインしていくか」や「教材の知識をどう会得していくか」など、全体設計から細かいプロセスまで、教育そのものが人や領域を横断して構想されることが求められ、「社会に開かれた教育課程」の体現はそこにあるのだと思います。